

感染症定期報告感染症別文献一覧表(2013/10/1～2014/3/31)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	Berl Munch Tierarztl Wochenschr. 126(2013)230-235	ドイツにおける野生イノシシのE型肝炎ウイルス(HEV)感染に関する抄録。ザクセン・アンハルト州で2011年中に採取された330頭の野生イノシシの血液サンプルについてHEV抗体検査を実施したところ、33%が陽性であった。陽性個体の分布は域内で均一ではなく、南西部と東部の間で有意差が認められた。
2	E型肝炎	東京都感染症週報. 2013年第45週	本邦におけるE型肝炎の報告。2013年第45週(11月4日～10日)において、東京都でE型肝炎が1例報告された。患者の年齢は50歳代であり、感染経路はブタのレバーによる経口感染と推定された。
3	E型肝炎	Emerg Infect Dis. 19(2013)686-688	英国における低分子量ヘパリン製剤によるE型肝炎の感染疑い例の報告。2011年5月、42歳の女性がE型肝炎を発症した。女性は発症の4週間前に低分子ヘパリン製剤の皮下投与を受けていた。これを受け、著者らは、市販の低分子ヘパリン製剤6製品について、PT-PCR法によりE型肝炎ウイルス、豚サーコウイルス及び豚パルボウイルスの有無を検討したが、いずれの製剤も陰性であった。
4	E型肝炎	Hepatol Res. Aug. 8, 2013 [in press]	本邦におけるE型肝炎ウイルス(HEV)感染に関する報告。三重県において2004年から2012年までに発生した散発性急性E型肝炎患者17例から分離されたHEVの遺伝子を解析した結果、遺伝子型3eが11例、遺伝子型3bが4例及び遺伝子型4が2例であった。一方、地域の食料品店から得た合計243パッケージのブタの生肝臓について解析した結果、12検体(4.9%)からHEV-RNAが検出された。さらに、12検体から分離されたHEVの遺伝子を解析した結果、遺伝子型3aが5例、遺伝子型3bが7例であった。ブタ由来の遺伝子型3bのHEV株はORF1及びORF2において、ヒトから検出された遺伝子型3bのHEV株と99.5～100%一致した。
5	インフルエンザ	Emerg Infect Dis. 19(2013)1709-1711	中国における鳥インフルエンザA(H1N1)感染の報告。2012年12月9日、3歳の男児がインフルエンザ様症状を呈して入院した。献体中のウイルスの全ゲノムを解析した結果、ユーラシア鳥様豚インフルエンザA(H1N1)(以下、EA-H1N1)と同定された。本症例が、EA-H1N1感染が確認されたはじめての症例である。
6	インフルエンザ	Infect Genet Evol. 13(2013)331-338	中国のブタから検出されたインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N1)に関する報告。2009年3月から2010年4月までに、中国の食肉加工場で収集されたブタのサンプルを調査した結果、複数のH1N1が検出された。遺伝子配列の解析の結果、従来型のブタH1N1及び鳥様のブタH1N1の他、2009年に流行したパンデミックウイルス3株が同定された。ブタにおいて複数のH1N1が循環していることから、中国のブタに対する監視が重要と考える。
7	インフルエンザ	Influenza Other Respir Viruses. 7(2013)783-390	パンデミックインフルエンザA(H1N1)型(以下、pdm09)に関する研究報告。2009年から2010年のブタから分離されたインフルエンザウイルス20検体と、養豚場を訪問して呼吸器疾患を患ったヒトから分離されたウイルス1検体について、血球凝集素(HA)及びノイラミニダーゼ(NA)遺伝子の特徴付けを行った。その結果、すべての検体がpdm09のウイルスのクラスターであり、共通祖先が認められた。遺伝的多様性はNAよりHAが高く、HA抗原部位の一つにS203Tのアミノ酸置換が認められた。ヒトの検体は他のヒト検体よりも訪問した養豚場のブタの検体との関連性が高かったため、ブタからヒトへの感染が示唆された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
8	インフルエンザ	ProMED-mail 20131220.2127835	米国におけるインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N1)感染の報告。2013年9月19日の報道によると、テキサス州Houston地区において最近、H1N1感染による死者6例が確認された。現在、少なくとも14例が重篤な状態である。保健当局担当者は、迅速検査法の信頼性が十分ではないことから、検査で陰性の患者の場合でもタミフルを処方する事を推奨した。
9	インフルエンザ	ProMED-mail 20131221.2129781	米国におけるインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N1)に関する情報提供。2013年12月20日、テキサス州の保健当局は州内でインフルエンザの報告が増加していること、90%がA型であり、さらにその90%がH1N1であること、このH1N1は今年度のワクチンで予防可能であることなどを情報提供した。
10	インフルエンザ	ProMED-mail 20131222.2131051	カナダにおけるインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N1)の院内感染の報告。2013年12月20日、保健当局は、アルバータ州Edmontonの病院においてH1N1の集団感染が発生し、多数の職員と少数の患者が感染したことを公表した。この病院の職員のうち、ワクチン接種を受けていたのはわずか20%であった。
11	インフルエンザ	ProMED-mail 20131224.2134839	米国におけるインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N1)感染の報告。2013年12月20日の報道によると、テキサス州において新たに2例の重篤なH1N1感染が確認され、また、感染者数の急増によりテキサス州と近隣3州が2013年度でははじめて”widespread”のカテゴリーとされた。
12	インフルエンザ	Science report. Apr. 3, 2013	2009年に流行したパンデミックインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N12009)の病原性に関する報告。H1N12009のブタ分離株(Jia6/10)及びヒト分離株(LN/09)の病原性を検討するため、マウス肺細胞に感染後のトランスクリプトームを解析した。その結果、LN/09に比べてJia6/10は、先天性免疫に関連する各種シグナルを強力に誘導し、活性酸素の産生を増加させることがわかった。
13	インフルエンザ	Virology. 446(2013)49-55	中国におけるインフルエンザA(H1N1)型(以下、H1N1)感染に関する報告。2010年、江蘇省において、鳥由来のH1N1のブタからヒトへの感染を認めた1例について評価を行った。その結果、症例の周囲のブタから同一のウイルスが検出され、検査されたブタのうち42.8%(21頭中9頭)が鳥由来のブタH1N1に陽性であった。
14	インフルエンザ	Virus Genes. 47(2013)75-85	タイにおけるブタのパンデミックインフルエンザA(H1N1)型(以下、pH1N1)感染の報告。2010年6月から2012年5月までに調査されたブタ1,335頭のうち、23頭(1.75%)からインフルエンザウイルスが検出された。pH1N1(7頭)及びpH1N1の遺伝子再集合体(1頭)のほか、北米のブタで流行するH3N2とpH1N1との遺伝子再集合体(9頭)などが検出された。
15	インフルエンザ	Zoonoses and Public Health. 60(2013)196-201	米国におけるインフルエンザA(H1N1)型に関する報告。2007年8月、オハイオ州の農業フェアに居合わせたヒト及びブタでインフルエンザ様症状が認められた。症状を発現したヒトは24例であった。初期症状を示したブタは1-2日以内に100%が死亡した。ヒト及びブタからは3重再集合体ウイルス(A/Sw/OH/511445/2007、A/Ohaio/01/2007及びA/Ohio/02/2007)が検出された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
16	インフルエンザ	http://www.arkansas.gov/health/newsroom/index.php?do:newsDetail=1&news_id=948#	米国におけるインフルエンザA(H1N1)変異型(以下、H1N1v)感染の報告。アーカンソー州の保健当局は、2例のH1N1v感染を確認したことを公表した。2例とも発症前にブタと接触していたことが確認されている。臨床症状は季節性インフルエンザと類似しており、2例とも回復した。
17	インフルエンザ	ProMED-mail 20130914.1944711	米国におけるインフルエンザA(H1N1)変異型(以下、H1N1v)感染の報告。アーカンソー州の保健当局は、2例のH1N1v感染を確認したことを公表した。2例とも発症前にブタと接触していたことが確認されている。臨床症状は季節性インフルエンザと類似しており、2例とも回復した。
18	インフルエンザ	Emerg Infect Dis. 18(2012)1937-1944	インフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)の遺伝子解析に関する報告。2011年8月、ペンシルバニア州の農業フェアにおいて、H3N2vに感染した小児が確認された。3例の患児から分離されたH3N2vについて解析をした結果、3検体ともゲノム中にM遺伝子を含んでいた。このM遺伝子は、北米のブタのH3N2ウイルスのM遺伝子と、以前ヒトへ感染した変異ウイルスのM遺伝子と類似していた。また、農業フェアの参加者を対象に後ろ向きコホート研究を行った結果、ブタへの接触がウイルス感染のリスクを高めることが示された。
19	インフルエンザ	http://www.aasv.org/news/story.php?id=6512	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2013年6月、インディアナ州において4例のH3N2v感染が確認された。4例の患者はいずれも州内の農業フェアに参加しており、ブタとの直接接合の機会があった。疾病予防管理センター(CDC)による解析の結果、今回検出されたH3N2vと昨年流行したH3N2vの遺伝子配列は99%一致した。H3N2vに感染した場合に合併症を引き起こすリスクの高い人について、引き続きブタ小屋やブタとの接触を避けることが推奨された。
20	インフルエンザ	http://www.aasv.org/news/story.php?id=6659	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。ミシガン州の保健当局及び農務当局は、8月12-17日に開催された農業フェアに参加した小児1例でH3N2v感染を確認したことを明らかにした。フェアで展示されたブタについて検査した結果、H3N2陽性が確認された。
21	インフルエンザ	ProMED-mail 20130830.1914050	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。ミシガン州の保健当局は、2013年8月29日、8月初旬に州内の農業フェアに参加した小児1例でH3N2v感染を確認したことを明らかにした。この症例は、2013年のミシガン州で確認されたはじめてのH3N2v感染例である。
22	インフルエンザ	http://www.cdc.gov/flu/swineflu/h3n2v-case-count.htm	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。疾病予防管理センターは、2013年10月18日時点のH3N2v感染者数の統計を公表した。2013年の感染者数は米国内で計19例であり、州別ではインディアナ州14例、ミシガン州2例、イリノイ州、アイオワ州、オハイオ州各1例であった。死亡例はなく、1例が入院した。
23	インフルエンザ	http://www.forth.go.jp/topics/2013/09091031.html	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。厚生労働省検疫所はホームページにおいて、米国内で18例(2013年9月6日時点)のH3N2v感染が確認されていることなどを情報提供した。また、小児、妊婦、高齢者等の重症化リスクの高い人は動物との濃厚接触を避けることなどが推奨された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
24	インフルエンザ	ProMED-mail 20130729.1852518	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。米国疾病予防管理センターは、2013年7月28日、H3N2v感染例2例(インディアナ州から1例、オハイオ州から1例)を確認したことを明らかにした。これで2013年中のH3N2v感染例は14例となった。いずれの症例も発症前にブタとの接触歴があった。また、持続的なヒトからヒトへの感染は確認されていない。
25	インフルエンザ	http://www.pigprogress.net/Health-Diseases/Research/2013/9/Abstract-South-Korean-research-finds-H3N2v-in-pigs-1350664W/	韓国のブタから検出されたインフルエンザA型に関する報告。韓国内で解体されたブタの肺組織からインフルエンザウイルスを単離し、その遺伝子配列を解析した結果、インフルエンザA(H3N2)及びA(H3N1)の再集合体が同定され、当該ウイルスはH1N1pdm09と類似のセグメントを含んでいた。このウイルスは、北米のブタにおいて流行しているH3N2変異型ウイルスと近縁であった。
26	インフルエンザ	J Infect Dis. Aug. 29, 2013 [in press]	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)に関する報告。浙江省杭州市にある、4ヶ所の生きた家禽の市場と3例のH7N9感染者が確認された自営農場から計99サンプルを採取し、H7N9について解析した。その結果、ほぼすべてのH7N9陽性検体が生きた家禽市場のニワトリやアヒルに由来していることが判明した。浙江省杭州市におけるヒトへのH7N9感染の主要な感染源は生きた家禽市場であることが示唆された。生きた家禽市場においてもH7N9感染リスクを低減するための抑制策が必要と考えられた。
27	インフルエンザ	ProMED-mail 20130806.1867206	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)のヒト-ヒト感染に関する報告。H7N9がヒトからヒトへ感染したと疑われる事例が報告された。発端患者は60歳の男性で、家禽市場を訪れた5又は6日後に発症し、多臓器不全により死亡した。男性の娘である32歳の女性は、父親と最後に接触した6日後に発症して入院し、多臓器不全により死亡した。女性に家禽との接触歴はなかったが、父親が集中治療室に運ばれる以前、ベツ脇で父親を看病していた。両患者から分離された株は遺伝学的にほぼ同一で、H7N9が父親から娘に感染したことが示唆された。一方で、持続的なヒト-ヒト感染は認められていない。
28	インフルエンザ	ProMED-mail 20131019.2009083	中国における鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染の報告。中国国家衛生・計画出産委員会は、2013年10月17日、WHOに対して8月11日以降ではじめてのH7N9感染症例1例を報告した。この症例は、浙江省の35歳の男性で10月8日に入院し、感染が確認された。WHOは、これまでに136例のH7N9感染が確定しており、うち45例が死亡したことを公表した。
29	インフルエンザ	J Infect. 68(2014)205-215	中国における鳥インフルエンザA(H10N8)型(以下、H10N8)に関する総説。2013年12月、江西省において慢性疾患を有する73歳の女性がH10N8に感染して死亡した。H10N8は主に渡り鳥で検出されるが、ごく最近、家禽からも検出されることが確認されている。いくつかの事実から、H10N8がヒトへの潜在的な脅威であることが示唆されている。組換えH10タンパクはヒトの気道上皮に付着可能であり、H10N8の赤血球凝集素、M1、NS1、PB2等のタンパク質中には哺乳類への適応を示唆する遺伝子マーカーが含まれている。H10N8のヒト、家禽及び野鳥におけるウイルス学的、血清学的な調査が必要である。

ID	感染症(PT)	出典	概要
30	インフルエンザ	ProMED-mail 20131217.2121718	中国における鳥インフルエンザA(H10N8)型(以下、H10N8)感染の報告。2013年12月17日、江西省においてH10N8感染による死亡1例が確認され、世界保健機関へ報告された。この症例は、基礎疾患を有する73歳の女性で免疫抑制状態にあり、11月30日に重症肺炎で入院し、12月6日に死亡した。なお、発症前に生きた家禽への曝露歴があることが確認されている。本症例との接触者からはこれまでに当該ウイルスは検出されていない。
31	インフルエンザ	Proc R Soc B. 280(2013)1-8	ブタ集団におけるインフルエンザの伝播パターンに関する報告。1998年から2010年までに香港の食肉処理場で実施された調査データについて、数理モデルを用いて解析を行った。その結果、ウイルス検出率の低下はその地域のインフルエンザ感染率の低下が原因ではないことが示された。むしろ、生産農場における感染率の上昇により、幼齢期のブタが免疫を獲得したことが原因であると考えられた。これに関連し、農場における日常の感染リスクは、屠畜場への移動中の曝露と同等若しくはそれ以上であることが示された。
32	インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_29Aug13.pdf	インフルエンザに関するWHOの報告。2013年7月4日から8月29日までにインフルエンザA(H5N1)型感染例として、カンボジアから4例(うち1例は死亡例)の報告があった。また、同期間におけるインフルエンザA(H7N9)型感染例として、中国から2例の報告があった。インフルエンザA(H3N2)型感染例として、2013年中は米国から16例が報告されている。
33	インフルエンザ	J Clin Microbiol. 51(2013)601-602	中国における鳥インフルエンザウイルスのブタへの感染の報告。近年、広東省のブタにおいて3種類の鳥インフルエンザウイルスの感染が確認された。今回、広東省を含む中国南部4省のブタにおいて抗体陽性率を調査した結果、H3N2、H4N8及びH6N6の陽性個体が確認された。しかし、H5N1の陽性個体はいずれの地域でも確認されなかった。中国農村内ではヒトとブタが近接していることから、ヒトへ感染が拡大する可能性もあると指摘されている。
34	インフルエンザ	ProMED-mail 20131025.2020734	米国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。2013年5月19日から9月28日までの間、米国におけるインフルエンザ感染の報告は少ない状態であった。2013年6月、インディアナ州においてインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)の2013年度で初めての感染者が確認された。その後、9月28日までにH3N2v及びインフルエンザA(H1N1)変異型の感染者として計20例が確認された。
35	インフルエンザ	ProMED-mail 20131229.2142139	米国におけるインフルエンザ感染の報告。ミズーリ州Kansas市ではインフルエンザの症例が着実に増加しており、2013年12月15日の集計では1週間のあいだに264例の感染が確認された。264例のうち259例がインフルエンザA型であった。
36	インフルエンザ	Influenza Other Respir Viruses. 7(2013)109-112	ブラジルにおけるブタのインフルエンザ感染に関する報告。ミナスジェライス州の農場においてブタ355頭から採取された血清サンプルについて抗体検査を実施した結果、ブタのH1N1型は44.5%(158頭)、ブタのH3N2型は10.1%(36頭)、ヒトのH1N1型は38.3%(136頭)で陽性であった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
37	インフルエンザ	臨床獣医. 31(2013)68-69	ブタにおけるインフルエンザ及び <i>Mycoplasma hyopneumoniae</i> (Mhp) の混合感染に関する報告。飼料中の微量栄養元素の異なる2群のブタ(6週齢)について、Mhpを気道感染させた3週間後にインフルエンザを気道感染させ、臨床症状を観察した。その結果、Mhp感染による酸化ストレス及びインフルエンザ感染による強い炎症反応が観察された。飼料の内容によりインフルエンザの症状の程度に影響を及ぼすことが示され、抗酸化作用のある物質を飼料に添加することがインフルエンザ感染への備えになると示唆された。
38	脳炎	Emerg Infect Dis. 19(2013)1385-1392	神経疾患を急性発症したウシから検出された新型ウシアストロウイルス (BoAstV-NeuroS1) の報告。カリフォルニア州で神経疾患を急性発症した雄ウシの脳組織からBoAstV-NeuroS1が検出された。原因不明のウシの脳炎症例32頭について検討した結果、新たに3頭で同ウイルスが検出された。BoAstV-NeuroS1による、ヒトと家畜間の感染の報告はないが、将来、人獣共通感染症となる可能性が懸念される。
39	口蹄疫	OIE. May 10, 2013	中国における口蹄疫の報告。発生日 2013年4月12日、アウトブレイクの確定日 2013年4月22日。原因は口蹄疫ウイルス(血清型A)。チベット自治区の農場においてウシ、ブタ及びヒツジの口蹄疫が発生した。感染疑い例はウシ47頭、ブタ6頭及びヒツジ48頭であり、確定例はウシ19頭、ブタ0頭及びヒツジ0頭であった。感染源は不明又は結論に到達していない。すべての感染疑い例が処分された。
40	口蹄疫	OIE Sep. 6, 2013	中国における口蹄疫の報告。発生日 2013年6月9日、アウトブレイクの確定日 2013年6月9日。原因は口蹄疫ウイルス(血清型A)。チベット自治区 Linzhi の農場においてウシ及びブタの口蹄疫が発生した。感染疑い例はウシ181頭及びブタ308頭であり、確定例はウシ51頭及びブタ21頭であった。感染源は不明又は結論に到達していない。すべての感染疑い例が処分された。
41	口蹄疫	ProMED-mail 20130925.1966913	中国における口蹄疫の報告。中国農務当局は、2013年9月24日、新疆ウイグル自治区で口蹄疫のウシ2頭が確認されたことを明らかにした。検査の結果、口蹄疫ウイルスはA型であった。汚染地区の消毒と封鎖が行われ、ウシ22頭が安全に遺棄された。
42	ワクシニアウイルス感染	Emerg Infect Dis. 19(2013)2017-2020	ブラジルにおける新規のワクシニアウイルス (VACV) 感染の報告。2010年7月、パラ州トカンチンス郡においてウシ44頭が乳首及び乳房に水疱及び潰瘍を呈した。発症した動物と直接に接触した農夫は手、前腕及び腹部にオルソボックスウイルスに典型的な病変と呈し、病変部の痛み、発熱、倦怠感を訴えた。検査の結果、ウシ及び農夫は同一のウイルスに感染していることが判明し、ウシの瘡蓋からグループ1Iに属する新規のVACVが同定された。
43	ウイルス感染	http://www.phac-aspc.gc.ca/erie/coronavirus/risk_assessment-evaluation_risque-eng.php	中東で流行する新規コロナウイルス感染に関する報告。2013年10月9日、カナダ保健当局は、中東で流行する新規コロナウイルス感染に関するリスク評価の結果を公表した。カナダにおけるリスクは依然として低いものの、効果的な対策のために疫学的知見の収集は引き続き必要であるとされた。また、WHOの委員会において、現在の状況は「世界的な公衆衛生上の脅威 (Public Health Emergency of International Concern)」には該当しないと判断されたこと等が紹介された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
44	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000033imc.html	本邦における牛海綿状脳症対策の見直しに関する報道発表。2013年6月3日、厚生労働省医薬食品局食品安全部は、食品安全委員会の評価結果に基づき、国産牛の検査対象月齢の見直しの実施について関係省令を改正するとともに、「特定危険部位の管理及び牛海綿状脳症検査に係る分別管理等のガイドライン」の改正を行った。
45	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS One. 8(2013)e67599	非定型牛海綿状脳症(BSE)に関連するプリオン蛋白の生化学的特徴及び蓄積パターンの報告。非定型BSE(L型及びH型BSE)のプリオン蛋白を感染させたウシの脳組織について、ウェスタンブロット法により蓄積パターンを検討し、各部位における生化学的特徴(分子量、プロテイナーゼK感受性等)を分析した。その結果、L型及びH型BSEのプリオン蛋白の蓄積パターンは従来型BSEと比較して明らかに異なっていた。一方、ウシ脳に蓄積したL型、H型及び従来型のプリオン蛋白の生化学的特徴については、調べた脳のどの部位においても各々のプリオン蛋白に固有の特徴が保持されていた。
46	黄色ブドウ球菌	http://www.thepigsite.com/swinenews/34315/mrsa-detected-in-norwegian-pig-herds	ノルウェーにおけるブタのメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染の報告。ノルウェー東部の11の家畜群とローガラン県の5つの農場において、MRSAに感染したブタが確認された。感染経路は確定していない。既に食品衛生当局による防護措置が講じられている。通常、MRSAは家畜の健康に害を及ぼさない。また、健康なヒトが感染することは希であり、食品を介する感染リスクはほとんどない。
47	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20140210.2269028	ベトナムにおけるレンサ球菌感染の報告。ダイビン省の男性がtiet canh(ブタの血のプディング)を喫食して、感染症により死亡した。2014年1月28日、男性は健康なブタを解体し、その血でtiet canhを作り喫食した。翌日、高熱、震え、消化器の異常があったが受診しなかった。さらにその翌日、血圧低下及びショック状態により医療機関へ搬送されたが、その日の夜に死亡した。患者からはブタのレンサ球菌が検出された。加熱調理していない肉や内臓、tiet canhは食べるべきではない。
48	炭疽	ProMED-mail 20130607.176116	米国におけるウシの炭疽の報告。2013年6月7日、ミネソタ州の獣医当局は、州内の農場で4歳のウシが炭疽により死亡したことを公表した。このウシは6月3日に農場で死亡しているところを発見され、6月6日に炭疽陽性であることが確認された。ミネソタ州で炭疽が確認されたのは、2008年以降で初めてである。
49	結核	PLoS Negl Trop Dis. (2013)e2177	メキシコにおけるウシ結核の人への感染に関する報告。メキシコの農場及び屠畜場の従業員とその家族311例を対象に、ツベルクリン皮膚検査(TST)及びインターフェロgamma放出試験(IGRA)を実施した。その結果、潜在的な感染率は、TSTで76.2%及びIGRAで58.5%であった。また、2例において <i>Mycobacterium bovis</i> による肺結核が認められた。
50	髄膜炎菌性髄膜炎	Braz J Microbiol. 44(2013)473-474	スペインにおける髄膜炎菌性髄膜炎の報告。ウエスカ州Barbastroの37歳男性が頭痛、嘔吐及び発熱により入院した。症例は養豚業に従事しており、発症の8日前、ブタに噛まれていた。生化学的検査の結果、 <i>Pasteurella multocida</i> の感染が確認され、頭部CT検査の結果、篩骨洞炎が認められた。

ID	感染症(PT)	出典	概要
51	大腸菌	Can J Public Health. 103(2012)322-326	カナダにおける志賀毒素産生性大腸菌(STEC)感染の報告。オンタリオ州において、ブタ肉を含む料理を喫食した59人のうち29例が胃腸炎を発症し、7例が入院した。6例は出血性下痢を呈していた。材料となったブタ肉と、発症した29例のうち11例からSTEC O157:H7が検出された。STEC O157の感染源としてブタ肉に対する意識を高めることや、屋外でブタを調理する際の安全な取扱い等に関する教育を行うことが必要と指摘された。
52	大腸菌 サルモネラ菌	Vet Microbiol. 2013 online	食用動物におけるサルモネラ属菌及び大腸菌が可動性遺伝因子からキノロン系薬剤への耐性を獲得するか評価した研究報告。2009年から2010年までに、食用動物(ブタ、家禽、ウサギ及びウシ)から分離されたサルモネラ属菌(183株)及び大腸菌(180株)について、プラスミド媒介性キノロン耐性を検討した結果、4.1%(363株中15株)が陽性であった。解析の結果、キノロン耐性遺伝子(<i>qnr</i> 遺伝子)は様々な型のプラスミドに含まれて存在していた。
53	ブルセラ症	Nurse Pract. 38(2013)49-53	米国におけるブルセラ症の報告。高熱により入院した症例1例において <i>Brucella suis</i> 感染が確認された。発症の3ヶ月前、症例は野生イノシシの狩猟を行っていた。
54	ボツリヌス中毒	http://www.abc.net.au/news/2013-06-25/botulism-deaths/4778104	オーストラリアにおけるウシのボツリヌス中毒の報告。2013年6月、北部準州において約300頭のウシがボツリヌス中毒により死亡した。感染源は特定されていないが、動物の死骸による可能性が最も高い。ウシは事前にワクチンを接種されていたが、毒素が免疫システムを上回ったものと考えられている。
55	カンピロバクター 胃腸炎 サルモネラ症 リステリア症 E型肝炎	Jpn J Infect Dis. 66(2013)161-164	本邦のブタにおけるカンピロバクター種、サルモネラ種、リステリア菌及びE型肝炎ウイルスの感染率に関する報告。2010年9月から2011年3月までに採取されたブタ110頭の肝臓について検討した結果、カンピロバクター種が14頭(12.7%)、サルモネラ種が5頭(4.5%)及びリステリア菌が1頭(1%)から検出された。E型肝炎ウイルスは検出されなかった。カンピロバクター種の薬剤耐性を調べた結果、 <i>Campylobacter jejuni</i> の1株を除き、すべての株が複数の抗菌剤への耐性を示した。エリスロマイシン及びエンロフロキサシンに耐性を示す株は9頭(8%)から検出された。
56	細菌感染	Helicobacter. 18(2013)392-396	ブタの接触者における <i>Helicobacter suis</i> 感染の報告。ブタと日常的に接触する機会のある33歳の男性獣医師が、逆流性食道炎及び一般的な消化不良症状を示した。検査の結果、ヘリコバクターピロリ菌ではない、 <i>Helicobacter suis</i> の感染が確認され、アモキシシリン、クラリスロマイシン及びパントプラゾールによる10日間の治療により菌の根絶が確認された。
57	旋毛虫症	http://www.thepigsite.com/swinenews/33805/senasa-bans-pork-products-from-labardn-due-to-trichinosis	アルゼンチンにおける旋毛虫症の報告。保健当局は、Labarden市内で発生した旋毛虫症の報告を受け、Labarden市内の豚肉及び豚肉加工製品の販売を禁止する措置を講じた。保健当局の調査により、仔ブタ20頭が旋毛虫症であることが判明した。
58	旋毛虫症	http://www.thepigsite.com/swinenews/34162/pigs-slaughtered-after-trichinosis-confirmed	アルゼンチンにおける旋毛虫症の報告。Saavedra市内で旋毛虫症の家畜1頭が確認されたことを受け、保健当局は農場に対し家畜の処分を指示した。その結果、73頭のブタが安全に遺棄された。